

第2回ワークショップ「みんなで描く2040年 福井の未来地図」概要

8月31日（土）、アオッサにおいて、長期ビジョン策定のための第2回ワークショップ「みんなで描く2040年 福井の未来地図」を開催しました。

この日は、学生グループ35名、若者グループ22名、子育て世代グループ19名の合計76名が参加し、世代別に3会場に分かれ、ワークショップ形式により目指すべき福井の将来像と実現のための方策などについて話し合いました。

<学生グループでの主な意見>

- 福井県の企業と仕事を知る。福井県には良い企業がたくさんあるが、それを知らないため、キザニアの高校生版を作り、インターンシップが気軽にできるようにする。大企業を人ごと福井に誘致し、最新情報が福井で容易に手に入るようにする。



- たくさんの方が集まり活性化している福井にしたい。そのために福井の魅力をSNSや広告などで発信し、福井に来てもらうきっかけをつくる。県民が伝統工芸を体験し、口コミで広めていくなど、情報発信の仕方を変えていく。



- 高校生や大学生の意見を取り入れ、他の県にはないユニークなまちづくりをめざす。例えば、恐竜好きの若者を集めて「恐竜課」をつくり、思い切ったアピールをするなど。自分たちも行政に意見を発信していきたい。



<若者グループ>

- 今は福井に住むことと夢を叶えることが両立できない場合があるが、交通基盤が整うと福井から通うという選択肢ができ、サテライトオフィスやテレワークが広がれば県外で働く必要もなくなる。多様な働き方ができることが重要。



- 都会をめざすのではなく、田舎を売りにして都市との差別化を図る。県民が「プロ田舎ニスト」になり、一人ひとりが自発的に福井を自慢する。そのためには、福井のことを学んだり、英語で説明できるよう、教育にも力をいれる。福井弁のLINEスタンプがあっても良い。



- 国内外から人に来てもらうためには、まずは自分たちが福井の良さを知り、伝えられるようになる必要がある。福井の良さを知るためには、県外に出てみることも大事なので、県外に出て福井に帰ってこられる仕組みが必要。

- AIの発達で人との会話が減り、コミュニケーション能力が低下するのではないか。子どもへのコミュニケーション教育が必要になる。

- お金を稼ぐためには、恐竜で観光を盛り上げ、国内外から観光客を呼び込む。恐竜博物館をジュラシックパークにして、宿泊しながら長く楽しんでもらう。
- 「恐竜王国ふくい」のPRを止めると、もっと福井の良いところが見えてくるのではないか。



<子育て世代グループ>

- 働きたい女性もいれば、専業主婦を望む女性もいる。それぞれが双方の良さを認め合い、様々な生き方を受け入れられる社会であってほしい。
- 三世帯同居をしても祖父母に頼れることには限界がある。県外から来た人を含め、子育てしやすい地域にする。周囲の目が気になり、子育て支援を受けにくい環境を直すことが必要。



- 男性も子育てしたいと思っても、上司の目やキャリアが気になり、育児休暇などの制度を利用しにくい。男性が家事や育児に参加できることが当たり前の社会にする。企業においても採用の際などに育児制度等がどこまで利用できるかを情報提供すべき。



- 県は3人っ子政策を進めているが、1人目からの支援があるとよい。そのほか行政による家事代行サービスなどがあるとよい。

